

今月のエキゾチック症例(第24回 2026年9月)

唾液腺と関連？ーハムスターの形質細胞腫ー

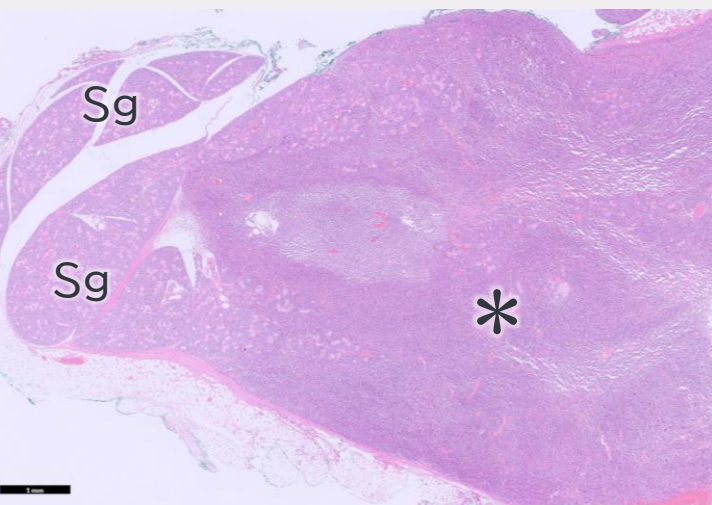


図 1. 頸部腹側皮下腫瘍の組織写真、低倍像。唾液腺(Sg)を巻き込みながら、被膜を欠き境界不明瞭な腫瘍性病変(*)が形成されています。

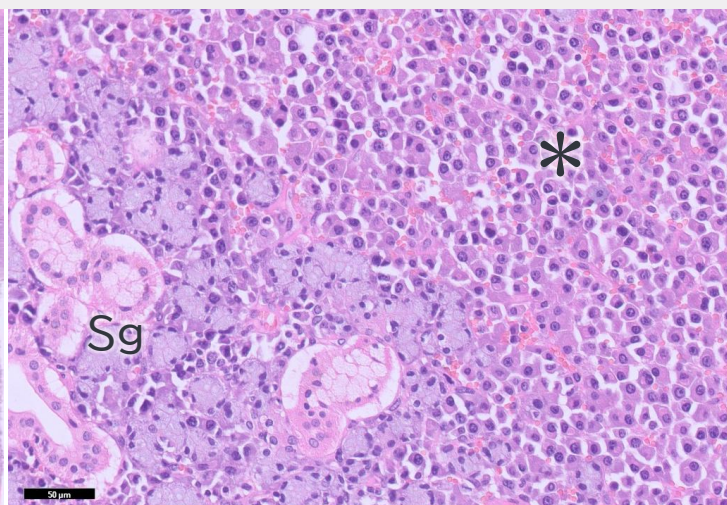


図 2. 組織写真、中倍像。類円形～多角形の腫瘍細胞がシート状～散在性に増殖しており(*), 唾液腺(Sg)の腺房や導管の間に浸潤しています。

髄外性形質細胞腫(EMP)は、Bリンパ球から分化した形質細胞に由来する腫瘍で、日本のペットのゴールデンハムスター(シリアンハムスター)では最も発生が多い腫瘍です。頸部皮下、特に唾液腺に発生することが多いです(図1)。ただし、まとまった数の報告はなく、生物学的挙動など詳細は不明です。

組織学的には、類円形～多角形の腫瘍細胞がシート状～散在性に増殖します(図2)。腫瘍細胞は、中等量～やや豊富な好酸性～両染色性の細胞質と、大小不同を示してクロマチン豊富な濃染性の類円形核を有します。核が偏在して核周囲明庭(ゴルジ野に相当)が見られることが特徴です。核小体の明瞭化や大型核、複数核が見られることもあり、有糸分裂数は様々です(図3)。

2例の唾液腺EMPの報告では、1例で隣接するリンパ節内への浸潤が認められました。念のため再発や転移に注意が必要です。また、一般的にEMPは多発性骨髄腫と関連はありませんが、念のため否定しておくことが勧められます。

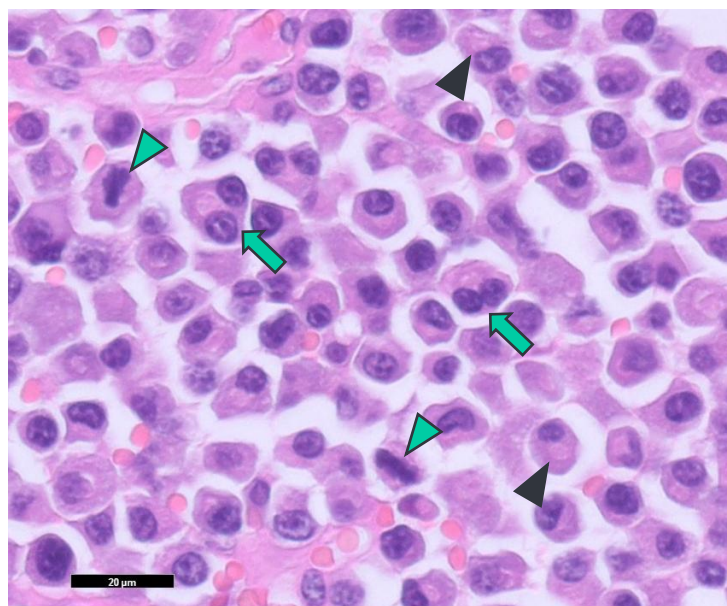


図 3. 組織写真、高倍像。腫瘍細胞は、中等量の好酸性～両染色性の細胞質と、明瞭な核小体と豊富なクロマチンを持つ類円形の濃染核を有します。核が偏在して、核周囲明庭(黒矢頭)が観察されます。二核の細胞(緑矢印)や有糸分裂像(緑矢頭)も散見されます。

執筆者からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

日本のゴールデンハムスターの体表腫瘍では、髄外性形質細胞腫は最も多く遭遇しますが、ドイツの後ろ向き研究の報告では含まれていなかったそうで、地域差や血統の違いがあるのかもしれませんが、発生部位もほとんどが唾液腺というのも興味深いです。ただ、唾液腺なのに「胸部腫瘍」として提出されることもあり(乳腺腫瘍も時に背部腫瘍として提出されます)、ずんぐりむっくりでかわいい姿をつい想像してしまいます。

参考文献

1. Munday JS et al., Vet Pathol. 2005; 42(6): 819-823.
2. Kondo H et al., Vet Pathol. 2008; 45(5): 678-680.
3. Medvedev LR et al., JAVMA. 2024; 18;263(9):1-3.

執筆: 中嶋 朋美
DVM, PhD, DJCVP

